

## 上田假奈代さん（作詞者）からメッセージ

### 歌っている場合じゃないと思っているけど、 歌う理由がある人へ

世界では正義を盾に、殺戮や暴力が行われている今日この日にも、日常がつづいています。なにもできない、と誰もが思っているのかもしれませんが。じぶんの毎日を生きてだけでせいっぱいだと思っているかもしれませんが。誰かの痛みや苦しみと地続きだと頭でわかっているけど、今日のごはん何食べようかな、とすぐに思考はうつろいます。

歌ったところで何にもならない、と思うんです。でも、あなたがおもしろく、笑って歌っていると、隣にいる誰かのところがほわっとやわらかくなることはあると思うんです。

だって、わたしがあなたの歌声にほわっとしたから。そんな誰かになりたい。つながって、つながって、誰かにつながっていくことを信じたい。

だから、わたしには歌う理由があるんです。いっしょに、歌いませんか。

上田假奈代

今年の新曲はとてもチャレンジングな作品です。トランスジェンダー（割り当てられた性と性自認が一致しない人）、外国人難民とその支援者、青少年の居場所づくり、障害者とその家族、コロナ禍の保健所職員の方々に聞き取りをして歌詞を作ってきました。残念ながら日本の社会は、「違い」を抱えた人が自分らしく生きていくには様々な困難があります。そんな中で「生きづらさ」を抱えた人に寄り添える社会、みんなが自分らしく笑い合っ生きていける社会を願ってこの曲を作りたいと考えました。

取材と作詞は、これまで医療介護、子どもの虐待、平和をテーマに3曲をつくっていただいた上田假奈代さんに、作曲は安広真理さんと長森かおるさんのお二人につくっていただきます。とにかく歌詞が面白いです…二人の作曲家が1章ずつ交互に作って一つの組曲にする意欲作です、どんな曲ができるか乞うご期待！

## 合唱組曲

### 「クウネルワラウ死ぬまで生きる」

#### 1・天★オスリッパ

—こどもも大人も自分で考えるアトリエのお話

#### 2・メバランド

—虹色トランスジェンダーのお話

#### 3・夢の手前で

—難民生活を18年つづける女性のお話と難民支援する女性のお話

#### 4・帰り道

—障害のあるこどものお母さんたちのお話とこどもの人たちのお話

#### 5・経験と免疫

—保健所で働く保健師のお話

## エピローグ

クウネルワラウ死ぬまで生きる

